第２回豊岡市地域福祉計画策定・推進委員会　会議録（要旨）

日　時：2026 年８月 26 日（水）午後１時～午後３時
場　所：市役所立野庁舎 １階 多目的ホール
出席者：16 名
欠席者：５名

注）この会議録要旨は、発言内容を一言一句整理したものではありません。発言内容をもとに一部簡略な表記としている箇所があります。

１　開　会

２　あいさつ

小野健康福祉部長

３　報告事項

⑴　委員の交代及び新規就任について　資料１
⑵　豊岡市地域福祉計画策定・推進委員会及び計画策定スケジュールについて　資料２

【質疑・意見交換】

特になし

４　協議事項

⑴　計画の骨子概要（素案）について　資料３
ア　背景・現状認識及び策定の方針について　資料４
（事務局説明）

【質疑・意見交換】

（A委員）資料４－２で「支援の重なり」の点を検討されていて、その中の重なりの要素で「まちづくり」と「地域づくり」という言葉が２つ出てくる。同じように感じるが、範囲が違うのか。違いについて教えてほしい。

（事務局）おっしゃるとおり「まちづくり」と「地域づくり」というのは、場合によっては同じように使われる場合もあるし、分けて使われる場合もある。議論する中では、その部分をあえて区別して議論をしたということではないが、こちらで整理する中では、「まちづくり」については、直接、福祉とは別の部分で一般的な福祉ではないような部分というイメージで表現している。「地域づくり」については、地域福祉の中でも包括的支援体制の三要素の１つに「地域づくり」があり、主には皆さんが集まる居場所といった意味での「地域づくり」というような使い方をされる場合が多い。そういった部分については「地域づくり」というのは居場所的なことや、福祉に近いような部分について表現をしたつもりである。

（小野部長）今までは地域福祉を中心に考えていたところがあったと思う。市長の市政方針の

中でも、創生５を打ち出しているので、そこは地域福祉だけではなくいろいろなところの分野が連携して、解決を図っていくという市の方向性がある。市全体の中で、どのように考えていくかというのが「まちづくり」で、「地域づくり」というのは、住民同士のつながりや支え合いをどうしていくかというような視点であるのではないかと思う。

（Ｂ委員）皆さんの認識合わせをお願いしたい。資料４－２の３ページ目「創生５×地域福祉検討分科会の意見交換シート」で、「子育てにやさしいまち」がある。ここの右側に「子どもたち」という言葉があるが、この「子どもたち」という言葉を聞かれて、皆さんどの年齢層の子どもを想像するか。かなり幅広いのではないか。２歳の子ども、７歳の子ども、12 歳の子ども、18 歳の高校３年生も子どもである。ここが混在しているので、例えばユースセンターやサードプレイスあたりは、おそらく高校生ないし中学生の上のほうを想定しているだろうし、公園の子どもがということではもっと小さい子ども、小学校低学年などを想定した書きぶりだと思う。子どもという広すぎる概念から、もう少し小さくフォーカスをして書いたほうが、皆さんの認識合わせがしやすいのではないか。

（事務局）Ｂ委員からご意見をいただきましたが、そのとおりだと思う。今回の分科会の意見としては、比較的低学年もしくは小さいお子さんをイメージした意見で、小さいお子さんを子育て中の方が発言される場面が多かったと認識している。こういった表記をする際には、ある程度分けたほうが、今後、推進していく上では、どこに力を入れていかなければならないかというところが明確になってよいと思うので、今後その辺りも意識して活用していきたい。

（小野部長）分科会の報告の中では、今までは地域福祉だけの取組みが主だったように思うが、いろいろな分野と連携して取り組む事例などもたくさん挙げていただいた。こういったものを次の計画に採用できるものは採用していきたいと思っている。また、新たに孤立・孤独の指標というものに、我々は着眼していきたいと思っている。今は地域の支え合いなども希薄化していて、孤立しておられる市民の方がだんだん多くなっていると認識している。従って、このような指標を追いながら、これに効く事業の展開も必要だと認識している。そういったものも、今後また計画の中に盛り込んでいければよいと考えている。

イ　上位目的、戦略目的について
（事務局説明）

【質疑・意見交換】

（Ｃ委員）戦略体系がどうこうというような話ではないが、その後の話として、５の「地域コミュニティの個性が生きる地方創生へ」で、「住民の地域活動やコミュニティの基盤を強める」と書いてある。行政の仕組みの中で、いろいろなところで「住民に」という形の施策が多いと思う。その中で、そのために動いている人たちが疲弊していてきてしまっているということが多々あろうかと思う。その上の部分の「地域福祉をマネジメントできる地域福祉行政の体制強化」というところでカバーをしていただければと思う。団体、個人、地域、いろいろなところにしわ寄せがこない施策であればと思う。

（D委員）コミュニティ組織の重視というところでは、この 29 のコミュニティ団体の中でも、特性があったり、住民の認識であったり、力であったり、今でももういろいろな差が出てきていると思う。その中でコミュニティの力は、相談に乗っていただけるような行政の後押しであるとか、アドバイスをいただくということは今もしていただいているとは思うが、さらにこれからもより関わりを強く持っていただいて運営を見ていただけたらという思いである。地域福祉という言葉１つ、誰もが安心して暮らせるという意味では、子どもから高齢者まで、本当に幅広い範囲を含んでいると思うので、幅が広い中で、地域の特性を生かして、住民の力も生かして、コミュニティを運営していくのかといったところの支えを今後具体的に考えていただければと思う。

（Ｅ委員）戦略体系ではどれも大切なことが書いてあると思う。支援のつながり検討部会などでもあったように、つながっているもの、重なっているものというのが、今でもすでにあると思う。人材やお金などの資源が限られている中で、うまく重なっているものは取りまとめをすることで、お金も人材も他の資源も有効に活用できるのではないか。この５つの中でも重なってしまっている部分もあると思うので、ここは見ていただいて、持続可能というところが非常に大事だと思うので、先ほどＣ委員も言われたとおり、疲弊しないという観点でより具体的な手段になっていけばよいと思う。

（小野部長）：それぞれの地域団体の代表者の方から意見をいただいた。それぞれの貴重なご意見だと思う。まずは、本当に地域コミュニティを巻き込むと言いながら、その地域コミュニティや個人が疲弊してしまっていたら元も子もないので、そこの視点は十分に意識して対応していきたい。また、Ｄ委員さんからは、相談に乗ってもらえるということを言われた。そこは社協が地域福祉では細かく相談には乗ってもらえると思う。社協も受け止めていただければと思う。また、Ｅ委員のご意見は本当に言われるで、資源にもお金にも限りがあるという中で、いかに行革を進めていかなければならいということを認識して、まちづくりを進めているところであるので、そういった視点も大事にしながら、この計画にも反映していきたい。

（Ｆ委員）２の「寄りのない高齢者」や、あるいは「孤立している人」という方と触れ合う機会が多いが、本当にいろんな諸問題を抱えておられる。自力では社会とつながれない人たちへの支援というのが考えられているので、これからの具体策がどのような形で出てくるのか期待している。

（中奥委員）資料４－４の厚生労働省の資料を見て、すごく世の中が変わろうとしているのだと思った。身寄りのない高齢者等への支援や権利擁護について、来年４月１日から動きだすような法律になっている。豊岡市でもそういったことを進めていかないといけないのではないかと思う。骨子概要の中でも、戦略体系ということでいろいろと挙げられている。新たに事業を１から始めるというのは、それを始める人のパワーが必要だし、エネルギーもものすごく必要だと思う。今、団体でも地区でもいろいろなことをされているが、地域にはそれぞれ向かう人、やり方、伝統等あると思うので、その辺を拾い上げて横につなげていくことも計画として進めていくとよいものになるかと思う。

（Ｇ委員）このような上位概念から手段ということでプランしていくにあたりよく失敗するのが、手段だけを追い求めてしまって、達成したとしてもこの上位概念が達成できないと

いうようなことがある。緻密に練られているので、そのようなことはないと思うが、そういった場合によくよく考えると、地域のニーズがそこにないとか、あまり問題視されていないというようなところが手段となっているというときに、そのような失敗に陥る。今後、これからまだまだ練られていくと思うので、そういった面でも少し見ていただけたらと思う。

（H委員）障害のある方も、豊岡市全体が高齢化してきているということと同じで、事業所に通われている障害のある方も非常に高齢化されている。地域で暮らしていくにあたりいろいろな課題がたくさん出てきているし、事業所としても、人材を募集するにも育成するのに非常に難しい時代がきている。人口が増えるということは考えられないし、今ある形の中でどのように隙間なくやっていくかということが非常に重要だと思う。支援の重りというところが本当に重要なのだろうと感じている。高齢の方も、障害のある方も、ただ支えられるだけではなく、お互いに支え合うような支援をする力を十分持っている。事業者も障害のある方に非常に助けられて運営することもあるので、やはりそういうことが今後も広がっていくということを計画の中でしっかりと掲げていただきたい。

（Ｉ委員）コミュニティがある中で、豊岡市保育協会として、子どもたちと一緒に何か地域の方々と触れ合える機会がないかとずっと考えていた。まず一番小さなことだが、散歩に出かけたときには周りの方と挨拶を交わして「おはよう」「かわいいね」と言っていただいたり、相手の方が笑顔になっていただいたりということがこれまでもあるので、そういう機会をたくさんつくってコミュニティや地域の方との関わりを増やしていきたい。また、情報発信については、なかなか受け取ることができていない。いろいろなところを見れば載っていると思うが、職員の中にも豊岡市内に在住している人が半分より少し少ないという現状で、実際のところ豊岡市で何が行われているのかいろいろなところを調べてみないとわからない。改めて情報発信については力を入れていかなければいけないのではないかと感じている。また、外国人講師が本園に１名いるが、とても大変だと本人から聞いている。そこら辺も外国人に向けての計画があったらよいと感じた。

（Ｊ委員）今回、この会に初めて出席した。非常に緻密に壮大な計画が練られていて驚いた。地域の医療から、学校では生徒数がみるみる減っていく感じを受けている。また、外来では高齢者の支え手が少なくなっていて、高齢者が 90 歳でも自分で通院してきて、どうやって帰るのだろうと思う。あるいは 70 代、80 代の方が 100 歳近くの方の面倒をみておられ、あるいは誰もついてこなくて、この方はここで悪くなったら誰に相談したらよいのかと思うような方が増えてきている。それを地域で支えるというように国は言うが、コミュニティというのは私個人の固まりで支えてくださいということなのでそれは限界がある。財政面は豊岡市もなかなか厳しいものがあると思うし、国も厳しいものがあるだろうが、やはり公的な援助でないとなかなか話は進んでいかないのではないかと思う。

（K委員）この施策を見ながら、自分らしさ、その人らしさが尊重されることは、人間として生まれてきた１つの命がその人らしく、ああここに生まれてよかった、豊岡市に生まれてよかったとみんなが感じてもらえる、そんな地域づくりをしないといけないですし、そんな温かい地域づくりをしたいという思いで私は活動している。その中で、先日、訪

問支援をした中で、ある地域の人から、私の家にアンケートがきたのだけれど、私は実は地域の中で孤立してしまっている、差別されている、よそからきたので入れてもらえない、あいさもしてもらえないという声を聞いた。こういう人がまだいらっしゃるのだと思った。大きな課題だと思った。うまく運営できているようで、この日本の社会というのは、本当に社会的孤立者が多い。若者の自殺者が多いということもその表れだと思う。それと一緒に、私たちが今、取り組んでいるひきこもりもそうである。地域の中で気になると思ったときに、ほっとけないという地域にしないといけない。でも、今は個人情報だから声をかけてよいのと悩む。そんなレベルでは、その人本人も相談できない。これは厳しい偏見の目というものが邪魔をしている。相談するのが恥ずかしい、家庭の責任だとか、そのように思ってしまうので、もっともっと相談しやすい、困ったら相談できる、そういう緩やかな関係づくりができるような地域になったらよいと思っている。つながりというのがキーワードで、いろいろな施策が行われているが、「つながろう」と言っても、「つながりたくない」と言う人が増えてきた。その人たちをどうするか。育成会にも入りたくない、ＰＴＡもなぜ入らなければいけないのか、そんな意見が出てくるような世の中になった中で、どうつながりをつくっていくかということが大きな課題だと思っている。困った人が「頼むね」と言える、本当に温かい関係づくり、地域づくりが実現できたらと日々、ひきこもり支援をしながら感じている。

（Ｌ委員）「支援の重なり検討分科会」については、ポイントでいくと包括的支援体制を行政のほうで整備していくという努力義務があるというところを形にしていくための検討がされ、それが骨子のほうに反映されている。もう１つは、創生５は、豊岡市独自のものになると思うが、戦略の特に３と５がすごく豊岡市らしいと感じた。いわゆるコミュニティ施策というのは、後発組で、一番力を入れて行政のほうで取り組んでこられた中に、４つの機能を持たせて、そのうちの１つが地域福祉なのだということで進めてこられた、この豊岡市の取組みがこの地域福祉計画にも反映されているので素晴らしいと感じた。先ほど、Ｃ委員がおっしゃったように、これは警鐘を鳴らす意味でコミュニティ・インフレーションという言い方をされたりするが、何でもかんでも地域にということではなく、どちらかというと地域福祉というのは住民自治の側なので、それをどう支えていくのかということがこの地域福祉計画のところにわかるように書き込めたらよいと感じた。

（Ｍ委員）現在の地域福祉計画のキーワードは、住民の主体的な地域づくりと専門職による総合的・包括的な支援体制づくりがあるが、今回の計画は、住民の主体的な地域づくりの要素が強いと感じている。特に地域コミュニティにおいては、地域の課題に対して住民自身がそれぞれ自分事として捉えて取り組んでいくということで、とても大事なことだと感じている。一方で、やはり住民だけでは解決できない問題もたくさんあるので、専門職や関係団体、福祉団体の力も非常に必要であるので、そういった力を絡めるようにいろいろなネットワークを使いながら計画の中に絡めていってほしい。

（Ｎ委員）人が人と一緒に生きるというようなところを支える計画なのだという説明を受けて、改めて大事な計画だとわかった。もう１つ、地区ごとの個性があるという説明があった。市の計画として策定をするものの、やはりそれぞれ特色があるということなので、そこ

がどのような形で表すことができるのか、活用に生かせるのかというようなところも、１つ大事なところかと思う。

（O委員）市役所の計画に携わる会議に出席された委員から、役所の計画というのは言葉が難しくて、私たちは全然入ってこないという意見や感想があった。このような計画だとどうしても行政用語になりがちなのだが、地域福祉計画は地域に落としていく計画なので、できる限りは平易な言葉で、誰が読んでもなるほどというような言葉遣いや文章になればよいのだろうという感想を１つ持った。また、戦略体系図の中で、先ほど、コミュニティという言葉がたくさん出た。コミュニティという言葉はとても便利な言葉で、いろいろなニュアンスがある。地域コミュニティ組織という、2017 年に発足したかつての公民館のエリアで組織される地域運営組織の地域コミュニティ組織という意味でのコミュニティという言葉もあれば、地縁型コミュニティといえば、いわゆる行政区ことでもある。そのため、このような戦略体系の中でコミュニティという言葉が割と便利使いされているような感じがしている。ここでいうコミュニティは、こういう意味だとか、ここでいう地域コミュニティはこういうニュアンスなのだということを、つくった側としてそこはしっかり押さえておくべきだと思う。また、冒頭にC委員の発言があったが、人口減少が我々の想像以上に進んでいる。もちろん自治会も行政も疲弊しているし、ある一定の集まった地域コミュニティ組織もだんだんと縮小していくのだろうと思う。ただ、そうは言いつつも、地域福祉計画を進めていくにつれては、こういった地域コミュニティ組織との連携というのはなくてはならないのはよくわかる。押しつけにならないように、説得よりも納得という言葉があるので、できるだけ伴走型で自分事化して無理のない範囲で共にやっていけるというような進め方をしていただければありがたい。

（P委員）もう少し目指す地域の姿、上位目的を磨くべきだろうと思う。 まず、１つは「地域福祉が根づくまち」と言われて、皆さんが同じイメージを持てるだろうか。多分それぞれ違う絵が頭の中で描けていると思う。上位目的なので、ここの絵が皆さんで違うとやることが違ってくる。５つの戦略目的があるが、私は上位目的と戦略目的の関係は、戦略目的は上位目的の因数分解だと思う。そもそもこの上目的を目指す姿が皆さんで一致できないと、この５つの要素があれば上位目的が達成できるかという議論ができない。先ほどO委員からもあったが、そもそも地域福祉という言葉もここにおられる皆さんは何となくわかると思う。何となくしかわからない方もおられると思う。住民の皆さんだとさらにぼやけてしまうと思う。ここはもう少し「地域福祉が根づく」というのはどういうことなのか、みんなが同じ絵を思い描けるように磨くべきだと思う。もう１つ、「コミュニティの個性が発揮され」のところ。下の戦略目的には、「地域コミュニティ」とある。「コミュニティ」と書かれると、私は３つのものを想像する。１つは地域コミュニティ、構成主体である行政区 359 が豊岡市にはある。さらにその下がご近所。行政区によっては組というところもある。上位目的はコミュニティでよくて、成果目的は地域コミュニティでよいのか。この２つは違うことを意味しているのか、同じことを意味しているのか。ここも多分ぼんやりしていると思う。そのような観点から、上位目的を磨きつつ、言葉をわかりやすくして、みんなでここに向かっているのだということを、みんなが理解できるようにするほうがよいと思う。もう１つ、I 委員が言われた情報について。

コミュニティの個性が発揮され、それぞれのコミュニティがそれぞれのことをするのはよいが、どこがどんなことをやっているのかというのは、地域福祉という広い概念からいくと、知っていることはとても大切なことだと思う。そのため、主な手段レベルでよいので、特徴的なことが知られているといった記載があってもよいのではないかと思う。

（小野部長）支援につながりにくい人、また身寄りのない人への具体的な支援が必要である、既存の取り組みを横につなぎ、包括的な支援体制をつくることが重要ではないか、また、地域だけに頼らず公的支援との役割分担が必要ではないか、またつながりを重視しつつ、つながりを望まない人、孤立の人にも配慮が必要であるとか、創生５の豊岡市独自の取り組みを生かした地域づくりに期待したいという声や、最後は、上位計画をさらに磨いてみんなが同じ姿を共用できるものにすることが重要だというような意見をいただいた。これを踏まえて、さらに磨きをかけて、次回の会議には磨きをかけたものを提示させていただきたい。

（事務局）先ほどあったコミュニティの言葉の使い方についての質問について、上のほうについては、一般的な共同体、地域としてのコミュニティと捉えている。 下の地域コミュニティというのは、地域コミュニティ組織をイメージしている。

ウ　リーディング・プロジェクトについて
（事務局説明）

【質疑・意見交換】
特になし

５　その他
・次回会議　10 月下旬予定

６　閉　会